

NEWS RELEASE

<<http://www.takara-bio.co.jp>>

平成21年12月7日

T B 0 9 - 3 0 9

食中毒原因菌カンピロバクターを 迅速に検出・同定する試薬を発売

タカラバイオ株式会社(社長:仲尾 功一)は、リアルタイム PCR 法を用いてカンピロバクター属菌の2菌種を特異的かつ迅速に検出・同定する「CycleavePCR® *Campylobacter* (*jejuni* / *coli*) Typing Kit」を本日より発売します。本製品は、扶桑薬品工業株式会社及び公立大学法人大阪府立大学よりライセンスを受けたカンピロバクター検出のためのプライマー配列(Cytolethal distending toxin 遺伝子の C サブユニットをターゲット)に、当社がリアルタイム PCR 技術を組み合わせることによって製品化したものです。本製品の製造販売は、当社が独占的に行います。

カンピロバクターが原因で起こる食中毒の発生件数は近年増加の傾向にあり、主要な食中毒原因菌の一つとして注目されています。カンピロバクターの主たる症状である腸炎の原因菌は、約 90%が *Campylobacter jejuni*(以下 *C. jejuni*)、数%が *Campylobacter coli*(以下 *C. coli*)と言われていますが、従来行われていた培養法では菌種の同定に7~10日間程度の時間がかかっていました。

今回販売を開始する製品では、1~2日間程度の前培養の後、リアルタイム PCR(約 1.5 時間)を行うことにより、迅速なカンピロバクター(*C. jejuni*及び *C. coli*)の検出と同定が可能となりました。

当社は、食品分野向けのリアルタイム PCR 製品として、重症化の危険性のある“腸管出血性大腸菌 O-157(ベロ毒素)”, 卵や鶏肉などを介した感染を起こす“サルモネラ菌”, 主に魚介類を介した感染を起こす“腸炎ビブリオ菌”の検出など、計6種類の食中毒関連の検出試薬をすでに発売しています。本製品発売による当社連結及び単体の平成22年3月期業績への影響は軽微ですが、カンピロバクターを含む幅広い食中毒原因物質に対応したリアルタイム PCR 製品のラインアップが揃ったことにより、微生物検査等のアプリケーションフィールド分野における売上拡大を目指します。また、ラインアップを充実させることで食中毒の予防と対策に大きく貢献できるものと期待しています。

【製品概要】

製品名 : CycleavePCR® *Campylobacter (jejuni / coli)* Typing Kit

製品コード : CY225

容量 : 50 回 (*C. jejuni* / *C. coli* 各 25 回)

価格 : 70,350 円 (税込)



製品の詳細やご購入については、当社営業部企画担当 (TEL:077-543-7231) にお問い合わせください。

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

この件に関するお問い合わせ先
タカラバイオ株式会社
バイオインダストリー部
Tel 077-543-7235

<参考資料>

【語句説明】

PCR 法

Polymerase Chain Reaction 法(ポリメラーゼ連鎖反応法)の略称です。温度サイクル装置(サーマルサイクラー)を使用し、微量の DNA を数時間のうちに数百万倍にまで増幅する技術です。

リアルタイムPCR法

従来の PCR 法は、サーマルサイクラーという機器で目的 DNA を増幅した後、増幅産物を電気泳動で解析するという手順で行われています。リアルタイム PCR 法では、サーマルサイクラーと分光蛍光光度計を一体化した機器を用いて、PCRでの DNA 増幅産物の生成過程をリアルタイム(実時間)で検出し、解析を行います。DNA 増幅産物の生成の過程を連続して観察できるため、より正確な定量ができます。また電気泳動を行う必要がないため、解析時間の大幅な短縮が可能となります。これらの特徴を活かし、遺伝子発現のモニタリングや特定遺伝子の存在確認による微生物の検出、生物種の判定など幅広い分野での応用が進んでいます。

カンピロバクター (*Campylobacter*) 属菌

カンピロバクターは、家畜の流産あるいは腸炎原因菌として獣医学分野で注目されていた菌で、現在では、ヒトに対する下痢原性が証明されています。

本菌に汚染された食品、飲料水の摂取や、動物との接触によってヒトに感染します。100個程度と比較的少ない菌量を摂取することにより感染が成立することが知られています。

ベロ毒素

O-157をはじめとする腸管出血性大腸菌が産生する毒素で、腸炎や溶血性尿毒症症候群などの合併症を引き起こします。この毒素が身体の中で様々な障害を起こすことによって、全身性の重篤な症状を出すものと考えられています。